

名古屋大学工学部	正員	○ 竹内伝史
名古屋市総務局企画課	正員	杉野尚夫
名古屋大学大学院	学生員	山際喜義

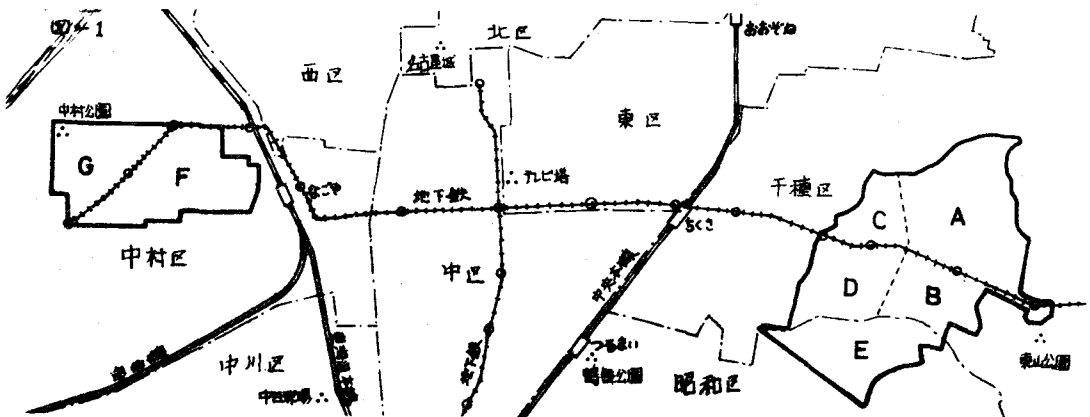
0. はじめに

現代都市における道路計画は、自動車交通の計画であると言ってもよいであろう。自動車をいかに多く、円滑に処理できる交通網をつくるかが交通計画の中心課題であった。しかし、こうした都市交通行政の結果、最近では都市の交通空間における歩行者の課外が重大な問題となってきた。われわれは、都市交通の基礎は人の動きにあることを考え、その中で徒歩の占める比重は決して看過できるものではないことに鑑み、ここに今一度、都市内の徒歩を中心とした交通の実態を把握することと考える。そこで、今回は住宅地区において、徒歩交通を中心としたパーソン・トリップを把握するための調査、およびその交通環境についての調査を試みた。以下に、この調査の概要を報告することにした。なお、この調査の内容については別に報告する。

1. 調査対象区域と標本抽出

調査対象区域は、住宅地域を中心として、比較的古い市街地を探した。これは、新興住宅地などについては、歩行者専用道などの計画が比較的良好に試みられており、歩行者の課外が問題となつたのは、より旧市街地に多いからである。区域の広さは教学区に及ぶ程度とし、区域内に地下鉄・市バス・市電の停留所あるいは勢力圏を含み、また都市計画道路が通っている所とした。これは、パーソン・トリップに表われるあらゆる都市交通機関の影響を捉えるためである。これらの条件下、調査のし易さなどをも考慮して、図-1に示す千種・昭和区の一部と中村区の一部を対象区域とした。前者は、比較的早期に開発された住宅地で、56町4学区、後者は住商混合の旧市街地で20町4学区である。

これらの区域は、町を単位としてまとめて50にゾーニングした。さらに、これを幹線道路によってブロックにまとめてある。全区域内の世帯数は昭和45年国調で36,489であり、これに住民登録台帳から5%の抜き取り抽出して標本世帯とした。標本数は各ブロックごとに表-1に示した。



2. 調査の方式と調査員

調査対象は、標本世帯の5才以上の家族構成員全員とし、交通環境に関する意識調査とパーソン・トリップ調査の一部は中学生以上のみ記入とした。調査は、調査員が住民台帳で調べた家族人数分だけ調査票の入った調査袋（他にあいさつ求と世帯票、粗品としてボールペンが入っている）を面接配布し、数日後に同一調査員が面接の上、回収することとした。調査員は、信頼性を担保するため、研究室員および友人の20名の学生がこれに当った。調査員には予め調査紙記入練習を含む説明会を行うと共に、一部は調査票の設計にも参加できるようにした。また、調査員の手引きを作成配布した。

3. 調査の実施

調査日は、調査員（大学生）が休みの日、高校以下の学校がまだ夏休みに入らない7月6日（火曜日）とし、7月2日から5日までを配布期間、7月7日から14日までを回収期間としたが、実際には調査日当日まで配布が伸びたものが60件程度あった。記入は調査日について行なうが、当日雨天の場合は順延とした。実際は当日、日没後、大きな夕立ちがあったが、実行とし、このための遅延はほとんど無かった。配布に当たっては、転居している場合は現居住者、長期不在はその隣の家に、不明・受取り拒否の場合は別に代替標本を同丁目内で指示した。その結果、表-1に示すように120件の配布先変更があった。その原因の分布は調査員の判断に差があり、はっきりしないが、拒否については、研究室員が電話で交渉した結果、減少した。なお、配布先は住所、氏名のほか、住宅地図上に示して調査員に渡した。最終的な配布達成状況は、F・Gブロックで35件配布できなかったほかは100%達成した。この配布不能は、調査員の突然の欠勤によるものである。

4. 回収状況

回収率は、表-1にみえるように大変よい（89%）が、Fブロックにおいては調査員が非常に苦勞して強引に回収したようであり、回収した調査用紙には白紙箇所が多く、無効となるものもあった。これは、調査員の技術的な差ではなく、居住者にFブロックと他のブロックとの間で、生活レベルなどの差があり、調査に対する関心が低いことによるものと考えられる。また、Bブロックで、やや回収率が低いのは、下宿学生が多く、訪問時間（8時～21時）中に面接できなかったためである。

5. 調査票の整理

調査票は、回収と共にあらかじめチェックを行ない、調査員からのヒアリングで加筆できるものは訂正した。開封と同時に、世帯通着、個人通着の付着を行ない、各調査票を分離し、チェック、コーディングを行なった。有効標本は、1333世帯3844人であった。なお、本調査に当たっては、名古屋市交通安全対策会議に絶大な御協力を頂いた。ここに感謝する。

表-1

ブロック	区域	世帯数	訪問世帯数	標本世帯数*	設計抽出率	回収世帯数(面訪流出世帯数)	回収世帯数	回収率	実質抽出率	有効標本数
A	自由丘・本山副辺	14	6,355	303	5%	303	(22)	270	89%	4.4%
B	穂波町・四谷通北	13	3,675	168	5	168	(17)	147	88	4.3
C	日泰寺副辺	5	3,667	79	5	79	(2)	75	95	4.7
D	丸山町・大島町など	12	4,028	199	5	199	(10)	179	90	4.4
E	昭和正倉分	11	5,106	245	5	245	(23)	223	91	4.6
F	中村島尾通以南部分	14	8,661	414	5	379	(44)	317	84	3.8
G	〃 以南部分	6	5,001	157	5	155	(2)	149	96	4.7
計		76	36,489	1,565	5%	1,528	(120)	1,360	89%	4.3%
										1,333世帯

* 町内で対象から除外した項目があるため、必ずしも訪問世帯数の5%になっていない。